

令和 3 年度

事業所名 : あお空グループホーム赤前

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200178		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム赤前		
所在地	〒027-0202 岩手県宮古市赤前4-83		
自己評価作成日	令和3年10月26日	評価結果市町村受理日	令和4年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム赤前は1ユニットである。一つの家族と考え、共に支えあい、笑いの絶えない生活をしています。現在、コロナの影響で近所付き合いが減ってしまったが、落ち着いたら以前のように、交流をしていきたいと思えます。職員、一人ひとりが利用者様と落ち着いた環境で寄り添い、コミュニケーションを図り、共に生活しています。利用者様の中でもお手伝い等、それぞれできる事を生かし、役割を持ち、表情豊かに暮らせる努力をしています。職員は月に1回、理念の読み合わせも行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道45号と海岸部に近接し、畑等に囲まれた住宅地であり、こども園をはじめ小・中・高の学校が近隣に配置された閑静な地域にある。運営推進会議委員に地元のあかまえこども園園長が委員として参加し、従前から園児が事業所を訪問し歌や劇を披露してきており、現在も利用者への肩もみプレゼントを行い交流を続けている。3か月に1回、身体拘束の内部研修やチェックリストを使用しアンケートを全職員に行っており、職員も言葉遣い等日々気を付けてケアに取り組み、(公財)東京都福祉財団作成のチェックリストを活用した職員アンケートを実施し、スピーチロック防止の徹底に併せて利用者の人権の保護についても周知徹底を図っている。コロナ渦中ではあるが、市内や隣町にドライブし、蕎麦・アイスを食べに出掛けるなど、利用者の外出機会が増加するよう工夫している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : あお空グループホーム赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで事業所理念を唱和し、管理者、職員共に共有し実践している。事業理念に掲げている、「真心を持って接する」事に力を入れている。	開設時に定めた「真心」を柱とする事業所理念を基本に、運営に当たっては、法人の四つの方針に沿って研鑽、職場づくり、地域との交流、個人情報保護を主眼に進め、職員は毎月のミーティングで唱和して日々の介護を通じ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在、コロナの流行により地域の方々とはあまり交流ができていない。今後、落ち着いたら慰問等、地域の方々もお呼びし、交流を深めていきたいと思っております。	コロナ禍で地域との交流は以前に比べたら無いに等しい。それでも毎年訪れている近傍の「あかまえこども園」の園児が来訪し、利用者の肩もみをしてきている。コロナ禍が収束すれば、以前のように相互の交流を復活させたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問で地域の方々が見学に来た際、足の運びが悪い方がおられ、声掛けをし、誘導を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナの流行により、運営推進会議が開催できずにいる状況。(約2年間)2年前に開催した際、利用者様の状況、人数や事業所での毎月の行事等の報告や話し合いを行っていました。	入居者、家族、地域の代表、こども園の園長と市の担当職員で構成され、職員の代表も参加している。コロナ禍のため、一昨年の1月を最後に開催を見合わせているが、この間のヒヤリハットは2件に留まり、大事に至ったものはなかったとしている。	参集しての開催が困難と判断される場合には、書面開催として文書等でご意見をいただく方法を検討し、また、地域の民生委員の委員就任と防災士資格を有する地域の方をゲストとして招聘して、幅広い方々から提言をいただくことが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方とは、分からない事があったら聞いたり、ホームの様子等を報告したり協力関係を築くよう努力している。	運営推進会議の委員をお願いしている市の職員が事業所の窓口となり、管理者の照会等に応えてくれている。市から利用者の入居状況や健康管理について照会があるなど、管理者は普段の情報交換を大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、身体拘束の内部研修や、チェックリストを使用しアンケートを全職員に行っている。職員も言葉遣い等、日々気を付け、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	指針を作成し、内部研修も3か月毎に開催している。研修に当たっては、(公財)東京都福祉財団作成のチェックリストを活用した職員アンケートを実施し、スピーチロック防止の徹底に併せて利用者の人権の保護についても周知を図っている。起床センサーは、家族の了承を得て8名の利用者が使用している。玄関の施錠は、19時から5時30分としている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の内部研修において高齢者虐待防止関連法について学び、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見制度について今後学ぶ機会を設けたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご家族の方にホームに来ていただき利用者様の事や、不安事、疑問点については答えるようにしています。重要事項、契約等、資料を元に説明し理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際、家族様、利用者様に出席していただき、要望や意見等を外部の方にも表せるよう機会を設け、運営に極力反映させています。	利用者の生活の様子や体調等について、毎月1回は利用者の状況に変化がなくとも報告の電話を家族にしている。その際、要望等を伺っているがこれといった話は出されていない。職員は、空いた時間に利用者の意向を傾聴し、申し送りノートに書き留めることとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回開催しているミーティング等で職員の意見や提案を聞き、場合によっては反映しています。代表者は出席していません。	職員は、ミーティング時や業務の合間に気づいた事を話してくれており、排せ介助を従来の職員1人から2人とし、利用者のプライバシーの保護等を徹底している。管理者と職員との定期の面談は行っていないが、必要があれば随時双方から声を掛けている。	職員の心情を理解し向上心を促進する上で、職員と定期的に個人面談を行うことが望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員が、やりがいや、各自が向上心を持って働けるよう努めている。職場環境も問題が起きた時は代表者に報告し、対応をお願いしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、自施設以外の研修の資料を持ってこられたり、FAXで送られてこられる。研修を受ける事により、管理者、職員1人1人のケアの仕方等、向上できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のセンター、委員会など同業者と交流する機会は設けている。勉強会は行っていないが、事業所同士の報告会は行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、「何をしていた方か」「何が好きか」「何が嫌いか」等本人に聞き取りを行い、困っている事や不安な事なども本人から聞き、安心して生活できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、「何をしていた方か」「何が好きか」「何が嫌いか」等本人に聞き取りを行い、困っている事や不安な事なども家族さんから聞き、安心して生活できるよう努めています。帰宅願望等があった場合は家族さんに電話し、最近の様子も兼ねながら報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様と、ご家族様に聞き取りを行い、必要としている支援は何かを考え、他のサービス利用も含んだ対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時々、言葉遣いが荒い職員も中にはいます。今後は言葉、態度等気を付けながら支援していきたいと思えます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様も家族様と「話したい」と訴えがあった場合はホームの電話を貸し通話したり、絆を大切に、本人との関係を築いていけるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナで、面会等もなかなか難しい状況が続き、関係が途切れないよう電話で会話されたりしています。中には、玄関で面会という形もとらせていただいています。	4, 5人の利用者には、家族以外の知人が面会に来てくれている。赤前地区の方は事前に電話で都合を尋ねてから来てくれるので、玄関での面会だが、出来るだけ時間を確保出来るよう入浴時間等を調整している。家族が迎えに来て墓参や法事に出掛ける利用者もいる。管理者は、家族との関係を絶やささないよう、日々の連絡を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人が孤立しないよう、ホールの席替えも管理者、職員全体で考え、利用者同士が関わりを持って生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、時折家族さんに連絡をし、ご本人様の現在の状態、様子等を聞き、関係性を崩さないようにしています。その際、相談にもめれるよう努力しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様1人1人の希望、意向等を聞き、ホームにて反映している。	入居時に利用者の生活歴等を聴き取る中で、その人となりを把握している。利用者は誰もが言葉に出して意思を伝えることが出来、特に、おやつ作りの希望はしばしばある。毎月2回は利用者職員でパフェやアイスづくりに勤しんでいる。4, 5人の利用者は、洗濯ものたたみ、テーブル拭きを手伝っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人の生活歴は、入所前に実調を参考にこれまでの暮らし方等を把握し、支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、毎月のミーティングの際のカンファレンスを実施し、ご本人様の状態、様子、過ごし方など把握できるよう努めています。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	時折、担当者会議を開き、管理者、家族様、計画作成担当者で話し合いの場を設け意見を出し合い、それに基づき介護計画を作成している。	計画作成担当者であるケアマネが、計画期間の目標達成状況等を基礎にして、次期の介護計画案を作成しミーティングや回覧の形で職員の見解を募り、家族の同意を得てプランとしている。計画期間は、短期3か月、長期6か月としている。	利用者に相応しい支援を実践していくためには、居室担当以外の職員も介護計画作成に積極的に参画することが望まれることから、計画作成手順について見直しすることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の担当を職員が1人1人持ち、日々の様子、状態などを職員がカンファレンス用紙に記入し、管理者、職員、計画作成担当者で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様ともすぐ連絡がとれる、柔軟なサービスを提供できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療関係、かかりつけ医とも連携を図り、安全に暮らせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様が通っていたかかりつけ医をそのまま継続し受診している。	利用者は、入居前からのかかりつけ医に継続して受診している。通院は早番の職員の付き添いとしているが、3人は希望で家族が付き添っている。通院時は、管理者が作成したメモと受診記録等を持参出来るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師さんが勤務している。申し送りは毎週行い、処置の仕方等分からない所は聞き、職員全体で情報を共有している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、病院とも電話で連携を図り本人のその時の状態や、様子の報告を受けている。「いつ頃退院が可能か？」等聞きながら相談する事がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、管理者、計画作成担当で話し合いの場を設けている。事業所で可能なことを家族さんに報告し理解していただいている。	入居時に事業所の方針を説明し、家族の同意を得ている。実際、看取りを行う上で医療機関との調整が難しいため、重度化した場合には再度説明したうえで、医療機関等に搬送しており、従って、これまで看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中でも数名、応急手当の訓練を行っていない状況。初期対応の訓練は行っている。今後、応急手当の訓練を実施していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を行っている。夜間想定、日中想定、全職員経験している。年に2回は消防立会い訓練を行い、消防署員の方から指導・講評を受けている。	事業所は、津波浸水区域に指定されており、そのため避難訓練は毎月行っている。消防署立ち合いの訓練では、大きな声で知らせ急いで逃げることを指導されている。消防署からは20分前後要するが、夜間に発生した場合、赤前地区に居住する3名程の職員が一番に招集されることになっている。避難に備え、毛布や介護用品を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けにも色々な言い方があると思いますが、「赤ちゃん言葉」「ちょっと待って」「汚い」等言わないよう気を付けて支援しています。	事業所として、理念に照らし利用者へ「真心」を持って接し、人としての尊厳を尊重することとしている。一昨年コロナ禍の前に市主催の権利擁護の研修会に出席し、復命研修も行ない職員に徹底している。排泄や入浴の介助の際には、利用者のプライバシーに留意している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望は受け入れるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の際も1人1人のペースが違い、その人のペースを大事にし、支援している。職員の都合は優先していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の半数は自分でその日着る衣類を決めている。自分で決められない方は、職員が衣類を見せ本人に確認しながら決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「何を食べたいか」「何が好きか？」利用者様1人1人に聞き食事が楽しくなるように声掛けしている。利用者様の中には、テーブル拭き、食器洗いを手伝ってくれる方もいます。	食事はご飯と味噌汁は職員が調理を行い、副食は冷凍食品を活用しているが、利用者の希望に応じ、急遽小口現金を使ってカレーの日など献立を変更することも月に数度はある。利用者は、包丁を持って調理することは無くなったが、配膳やテーブル拭きを手伝い、お弁当持参の職員と一緒に食事をいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人摂取量は、体重増加に伴う事もあるので気を付けています。ご本人様からも食事量、水分量はどのぐらいが聞き、対応しています。1日の水分量は大体1人1000cc程です。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方も数名いる。自力で出来ない方には職員が付き添い介助しています。毎食後、口腔ケアを行い入れ歯等も洗浄。毎週、夜勤者が歯磨き・コップを消毒しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツは使用せず、8名リハビリパンツを着用しています。2~3時間毎にトイレ誘導を行ったり、声掛けをしています。本人から拒否があった場合は強要していません。	昼夜とも利用者は全員トイレを使い、3人だけが介助を必要としている。排泄チェック表に記録しているが、排便、水分摂取の記録としての意味が大きく、1日1,200ccの摂取としている。利用者は、布パンが1人のほかはリハビリパンツにパットを併用している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホール内の歩行運動を定期的実施。足が痛い時等は強要しない。自分のペースで行っている。排便の間隔が空いた場合は、かかりつけを受診した際に報告し下剤の処方をしていただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大体、週に2~3回は入浴していただきます。「入りたくない」と申し出があった場合、翌日か自分の入りたい時に入るよう支援しています。	3日に1回の割合いで1人30分程度ゆっくり時間をかけて入浴している。1日3人程度を順番の職員が介助している。異性介助の訴えはない。入浴時間は職員と1対1になって普段話せないことも口に出ることがある。着替えは午前中のうちに職員と一緒に用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後等、お昼寝をする利用者様も数名いらっしゃいます。夜間も気持ちよく休んでいただくため、エアコンを使用したり足上げのクッションを使用したりする等、工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員1人1人が利用者様の担当をもち、薬の管理を行っている。看護記録に9名分のお薬情報を綴っている。薬の副作用等は口頭で説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の中でも、洗濯たたみ、洗濯干し等、役割を持って過ごされています。散歩やドライブに時々出かけられ気分転換を図っている。レク活動でも歌を歌ったり楽しそうに過ごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブでは、利用者様に行きたい所を聞き、出かけるようにしている。散歩中、地域の方と会った時は挨拶を交わしている。	コロナ禍のため、以前のように外出できなくなっているが、10時頃から事業所周辺を散歩し、時には宮古市内や隣町まで1時間程度のドライブを楽しんでいる。通院時に家族と帰宅し食事を楽しんでいるほか、10月には川井までお昼にお蕎麦やアイスを食べに出掛けたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは、家族様から預り金を預かり管理者が管理している。本人から申し出があった場合は買い物に同行している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム赤前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙が、相手側からくる時もある。携帯を所持している利用者様は自ら電話を掛けている事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内、浴室、トイレ等に、刺激物は置かないように配慮している。ホール内にもその時期にあった飾り物をつけている。	玄関を入れて扉を開けると、キッチンと多目的スペースを併設した30坪ほどの広い共用空間がある。テーブル3卓とソファ、テレビが用意され、普段は利用者の居間兼食堂となっているが、たくさんのお客様を招いた敬老会なども出来るようになっている。壁には職員と一緒に作った切り絵や思い出の写真が飾られ、折鶴が天井から下げられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席でお話をされている事が多いです。独りで居室に過ごされてTVを見ている方もいます。時々、職員も間に入りコミュニケーションを図っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、ご本人や家族様と物の配置や、使い慣れた物を運び、本人が不安にならないよう工夫しています。	ベッドやクローゼット、ナースコールが設置され、室温はエアコンで管理されている。利用者は家族と共に自宅での生活を延長できるよう、テレビや椅子を持ち込み孫の写真を飾り、居心地の良い部屋にしている。居室の入り口の名札は、緊急時には外して退出表示の機能を有している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外には、スロープ設置。玄関には段差がなくなるよう坂を設置。自分で歩行する際、転倒防止のため。安全に生活してもらう為。		